

# 一つの花

今西祐行



児童文学

ビデオライブラリー



# 一つの花

（「一つの花」今西祐行著 偕成社刊）



今西祐行 原作  
松永禎郎 絵

「一つだけちょうだい。」これが、ゆみ子のはっきり覚えた最初の言葉でした。まだ、戦争のはげしかった頃のことです。

「なんてかわいそうな子でしょうね。一つだけちょうだいと言えば、なんでももらえると思っているのね。」「——いったい、大きくなって、どんな子に育つだろう。」

まもなく、お父さんが戦争に行く日がやってきました。ゆみ子はお母さんにおぶわれて、速い汽車の駅まで送って行きました。おにぎりを「一つだけ、一つだけ。」とほしがって泣くゆみ子に、お父さんが一輪のコスモスをもってきました。「ゆみ。さあ、一つだけあげよう。大事にするんだよう——。」

そして、お父さんは、汽車に乗って行ってしまいました。ゆみ子のにぎっている、一つの花を見つめながら……。

十年後。

ゆみ子はお父さんの顔を覚えていません。今、ゆみ子のとんとんぶきの家は、コスモスの花でいっぱいになっています。……